（調査様式１）

１．　自己評価及び外部評価結果

作成日　令和2年2月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690101607
法　人　名	社会福祉法人　喜入会
事 業 所 名	グループホーム瀬々串
所　在　地	鹿児島市喜入瀬々串町1番地 （電 話）099-343-8885
自己評価作成日	令和2年1月20日

※事業所の基本情報は，WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ＮＰＯさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町１６番A棟３Ｆ３０２号
訪問調査日	令和2年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・地域の方と一緒に、地域に昔から伝わる郷土料理を作ったり伝統芸能に触れることの出来る機会を設けている。
・校区内へのドライブや施設近辺での散歩を行っており、心身機能の向上を図っている
・併設しているデイサービスの共用スペースにて体操や団らんで地域交流ができる。入所されても馴染みの方との関係を継続できるような環境作りを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点，工夫点（評価機関記入）】

海岸沿いに位置し明るくゆったりとしたリビングからは、桜島や錦江湾が望め気持ちよく過ごすことができる。近隣には郵便局や小学校、公民館、瀬々串駅、それに石油基地があり、交通の便も良い。

職員と利用者が一緒に、海岸の清掃活動や散歩を通じて地域の方とふれあい、校区の文化祭や運動会、地域や保育園の夏祭りなどに出かけている。また、併設のデイサービスの共用スペースでも利用者が地域の方々と交流している。高校の実習生や中学生の職場体験学習のほか、踊りや紙芝居のボランティアの受入れ、地域住民の協力を得てのそば打ちなど、地域との交流は非常に活発である。

利用者が家庭的にいかに気持ちよく過ごせるか、そして出来る限り自立して楽しい生活を送れるかに管理者及び職員の関心が払われ、それらの実現に向けた意見交換と情報共有に重点を置いている。家族の意向にも十分に配慮しながら、地域との交流や趣味の支援への工夫も含めて利用者の言葉やしぐさ・行動、利用者作成の日記に注意を払い、各種のセキュリティ対策や職員間のインカムも活用しながら日々サービス向上に向けた取り組みが実践されている。

管理者は職員の意見や提案・気付きを、業務改善や職員育成、提供するサービスの質向上に結びつけるために、行事の企画や日常の言葉かけの工夫、毎月の内部研修や自己評価の際の個別面談など、日頃より話しやすい雰囲気作りに努めている。対応は日々の話し合いや研修等で職員と十分連携して進める仕組みを築いている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念の理解を促し、朝礼や勉強会で唱和している。新入職員にはオリエンテーションを行い理念について説明している。	理念に沿って地域や家族とのつながりの中で、利用者の生活歴を大切に、利用者の想いに寄り添いながら個々のペースで日常が楽しく過ごせるように日々取り組んでいる。理念は掲示して朝礼や勉強会時の唱和のほか、日々のケアや毎月の内部研修を通じて意義をふり返り理解を深めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議では地域の代表の方に参加して頂いている。その他、地域の行事に参加（文化祭・運動会など）、海岸清掃では地域の集合場所に使用している、など	散歩や買い物の際に地域の人々とふれあい、また、海岸清掃や校区の運動会・文化祭、地域及び近隣の保育園夏祭りなどに参加している。併設のデイサービスの共用スペースでも地域の方々と利用者が交流している。ホームの夏祭りや焼き芋会、母の日や父の日の催し等には地域の方々やボランティアも参加している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	相談にこられた地域の方へ、認知症の理解や対応について・介護サービス利用についてなどの説明等、情報提供を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス実施状況、入居状況、取り組み等の報告を行い、地域住民や有識者からいただいたご意見をもとに新しい支援へと結びついている。	会議は利用者や家族、地域住民、民生委員、人権擁護委員、地域包括支援センターの職員等が参加して、時には避難訓練やクリスマス会に合わせて定期的に開催されている。ホームの現況や活動並びに利用者の暮らしぶりの報告及び問題点等の意見交換が行われ、得られた意見や提案を職員で共有して、サービス向上や業務の改善、また、地域との交流等に役立てている。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り，事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら，協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点は問い合わせを行い、包括支援センターや市町村担当者などの方と日常的に連絡を取り合っている	地域包括支援センターの職員には毎回の運営推進会議で多くの意見や提案をもらっている。市の担当者とは電話や訪問で運営や利用者の状況、各種の手続き等について確認や相談を行い連携を図っている。また、市が主催の研修や連絡協議会などに参加して、情報や意見交換も行っている。介護相談員からの助言や提案も得られている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており，玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を作り職員の施設内研修や勉強会で学ぶ機会を作り身体拘束をしないケアを心掛けている	身体拘束対策委員会があり身体拘束や高齢者虐待等の勉強会を実施して、職員の共通理解を図りケアへの反映に努めている。特に言葉による行動制限や気持ちの押さえつけがないように、日々のケアでも繰り返し確認している。利用者が外出しそうな場合は職員は連携して見守り、近隣の方々には見守りや声かけをしてもらえるようなお願いもしている。玄関やエレベーター、ユニット間の通路、居室等にセンサーなどを設置し、安全対策にも十分配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事業所内研修や外部研修で高齢者虐待防止法について学び、事例などを通じ職員間で虐待について指摘しやすい環境作りに取り組んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がおり、、後見人との打ち合わせや日頃の連絡調整を通じて学ぶ機会を得ている。外部研修の中でも学ぶ機会があるため研修内容を職員に周知し勉強会を行っている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族が理解できるように丁寧に説明するように心がけている。契約締結の際は質問がないかを確認している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の中で運営に関するアンケート調査を実施し、調査結果を運営推進会議の際に提示している。苦情相談窓口、対応マニュアルを整備してある。運営推進会議での家族からの意見も運営に反映している。	利用者や家族との信頼関係構築を大切に考えて日々支援に取り組んでいる。利用者とは日々の暮らしの中で思いや意見の把握に努め、家族とは電話や来所時、運営推進会議、お茶会を兼ねた家族会、行事の際に気軽に話せる雰囲気作りに努め多くの意見をもらっている。家族会ではアンケートもお願いし、職員は申し送りや毎月の内部研修等で内容を共有して必要な対応を話し合い、家族にも電話や来所時の対話、写真付きのお便りなどで報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の中での職員の意見を運営に反映している。ストレスチェックを行うほか、必要に応じ、適宜面談を実施している。	管理者は職員の育成に強い関心を持ち、意見や提案を日常のミーティングや申し送り、毎月の内部研修等のほか、必要に応じての個別面談など、日頃からコミュニケーションを取りやすい環境づくりに努めている。また、ストレスチェックやキャリアアップ制度、職員の自己評価なども活用して、業務改善や職場・就業環境の整備、資格取得の支援などに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算、特定処遇改善加算、キャリアアップ制度の導入や定期昇給を設けているほか、介護福祉士など資格取得に向けて法人全体で勉強会が独自で設けられている		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員に対して、基本的技術が行えるよう勉強会やマンツーマン指導を行っているほか、法人内での資格取得のための勉強会を当該職員が受講できるように調整をおこなっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センターや、介護支援専門員協会が主催する事例検討会、講習会へ参加し交流している		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 　サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前や、ご利用前に可能である限り訪問し、本人の要望・ご意見を伺い安心して生活いただけるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 　サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用に至るまで、面談・電話での連絡、関係機関との連携等を行い関係つくりやニーズの把握に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 　サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の際、既往などにより医療的ニーズが主に必要になる方や、空室がなく早急に支援を必要としているケースの場合　他施設サービスや在宅サービスについて説明・案内・施設間連携等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 　職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者が共に食事をし、生活に必要な家事（食事準備・洗濯・片付けなど）を一緒に可能な範囲で行っている		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気軽に相談しやすい雰囲気作りに心掛けている。面会がなかなかできないご家族様へ写真付きのはがきを送付している。家族が気軽に行事に参加できるように行事のお知らせを掲示しているほか、家族会などで家族との交流が出来る機会を設けている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの方との面会や連絡ができるよう、手紙を出したり電話でのやり取りなどの支援を積極的に実施している	併設のデイサービスでの地域の方々とのふれあいのほか、家族及び友人・知人の来所時にはゆったりと過ごせるよう支援している。家族との帰宅や美容院・外食等も積極的に勧め、馴染みの美容院や買い物にも同行している。電話や手紙の取り次ぎ、絵画や生け花、習字、手芸等の趣味の支援など、利用者の希望を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット内での人間関係は把握しており、お互いが交友関係を保てるよう席の配置等に配慮している		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などによる退去後もご家族様からの相談に応じている。退去後も再入居の要望が生じることもあり連携が途切れないよう支援している		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出や買い物の支援など可能な支援を行っている。一人ひとりの趣味や生活歴に合わせた声掛けや個別支援も実施している	入所時の聞き取りや家族来所時の会話から利用者の意向や生活歴を把握し、日々の暮らしを通じて思いや希望を酌み取るよう取り組んでいる。ミーティングや申し送りノート、職員の気づきも含むサービス提供記録等で共有を図り、家族とも相談しながら利用者の心身の状況に合わせた寄り添う支援になるように努力を重ねている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やこれまでの暮らしなどを聞き取りを行い、ダンスをする機会や、利用者による植物の授業開催などを行っている。支援経過、サービス提供記録等で経過把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人・家族等のアセスメントや情報提供などから把握し、実生活のなかでできることを導き出し身心の状況に合わせた過ごし方ができる環境を整えている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議にてご入居者、家族、介護職員、計画作成者、その他関係者と連絡調整し介護計画作成を行っている	利用者及び家族の思いや意見、また、主治医や看護師などの関係者の意見も加えて担当者会議で話し合い、きめ細かなわかりやすい介護計画を作成している。 日々の様子は個別サービス提供記録や経過記録、業務日誌などに本人の言葉や行動なども具体的に記述し、変化がみられる場合には２４時間シートに詳しく記録している。定期的なモニタリングや随時のカンファレンスでは課題も含めて話し合い、計画の見直しや修正を適切に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録を個別サービス提供記録に記録し、情報を共有している。変化がある際は24時間シートを活用し、状態変化が長期に渡る際は介護計画見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様のニーズに合わせ、美容室などへの外出支援や買い物支援などできる範囲で行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の医療機関や消防署、包括支援センター、校区公民館などのフォーマルサービスを把握し連携を取りグループホーム瀬々串での生活につなげている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への受診同行のほか、在宅時に利用していた専門医医療機関への受診をご家族様の協力を頂きながら継続して受診できるよう支援している	利用者個々の利用前の受診経過は十分に把握されており、本人・家族が希望するかかりつけ医の受診を適切に支援している。医師との話し合いや情報交換も十分になされ、家族との連携も図れている。利用者の状況の変化の際には協力医療機関の看護師に連絡して対応に努め、緊急時には協力医療機関により適切な医療が受けられる。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化が見られた時には、協力医療機関の看護師へ連絡・相談し、適切な受診、看護が受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院の際は、医療機関と連携し必要な情報交換を行っている。入院時にスムーズに連携できるよう、連携室がグループ内にあり必要時連携を行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化についての説明を入居当初の契約時に行っているほか、重要事項説明書に明記している。状態変化がみられるときは本人、家族の意向を再確認し、関係者で情報共有している	重度化や終末期のケアについては、利用開始時に文書を基に本人や家族に説明するとともに、様々な変化の都度繰り返し十分に話し合い、その意向を意向確認書も用いて把握している。かかりつけ医や看護師、家族、職員と十分な話し合いを行い、病院や特別養護老人ホームなどへの移動も含めて、ホームとして適切な支援が提供できるように努めている。なお、職員のスキルアップのために勉強会を行い、緊急時対応のためのマニュアルも整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に対応できるようマニュアルを作成し、ユニットごとに設置し施設内・施設外勉強会などを通じて実践にいかせるようにしている		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を昼間想定、夜間想定で実施しており、全職員が対応できるよう施設内研修などで報告し避難方法を再確認している。運営推進会議などで地域住民も訓練に参加いただき協力体制をつくっている	消防署と連携して年２回は夜間も想定した避難訓練を、時には運営推進会議に合わせて併設のデイサービスや地域住民、家族と共に実施している。訓練では特に、避難経路の確認や誘導方法、消火器の扱いなどに重点を置いている。災害時を想定しスプリンクラーや自動通報装置等を設置し、食料や飲料水、LEDライト等の備えも問題はなく、災害時には地域の住民への施設提供も可能な状況である。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の施設内、施設外研修に参加し人格尊重や対応について検討している	居室の管理や排泄・入浴・食事等をはじめとした日々のケアに際して、利用者の誇りやプライバシー確保へのわかりやすい簡潔な声かけや対応を、全職員が繰り返し確認している。マニュアル整備とともに、接遇や個人情報保護などの研修も実施して職員の意識付けを図っている。各種の個人記録についても適切に保護されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	『ご入居者様の「～～したい」を実現できるよう支援します』の理念に基づき、入居者の声に耳を傾け自己選択・自己決定できるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これまでの在宅時の生活リズムや習慣を尊重し、本人の希望を聞く支援を心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	化粧やアクセサリーなどでそれぞれの身だしなみを楽しまれている。希望によりヘアカラーなどができるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と食事準備や片付けを行い、食事そのものを楽しんでいただいている。季節ごとに楽しめる調理支援も実施している。	食事の準備・調理補助・片付けなど利用者のできることは声かけしながら手伝ってもらい、食事が楽しみになるように工夫している。食事の前には献立の説明も行っている。季節の行事食や敬老会・クリスマス会・誕生会等の特別食、職員もしくは家族との外食、利用者とのそば打ちや季節ごとのお菓子作りなど多くの工夫もしている。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の立てた献立に基づいたメニューを提供し、必要な栄養が確保できるようにしている。水分提供の時間を定めており、それ以外にも状態に応じて支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの個別マニュアルを作成し、口腔内の清潔が保持されるようにしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄リズムを把握することで排泄の失敗が減少するように支援している	居室と共用のトイレを併用しながら利用者の見守りや排泄チェック表を活用して個々のパターンを把握し、早めにさり気なく声かけして誘導するなど羞恥心や不安軽減に努めている。また、利用者個々に合わせた、これまでの生活習慣や身体機能に沿った対応になるように職員が十分に話し合い、排泄用品の選択も含めてプランに組み込んで支援に反映している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お通じが遠のいているときは水分提供や腹部を意識した体操、歩行訓練の実施などをしている		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価 実施状況	外部評価 実施状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入居者様のニーズに合わせ、入浴のタイミングや声掛けを工夫しているほか、好みの時間入浴できるよう体調・健康状態や既往歴に合わせて声掛けをしている	健康状態や安全に配慮し、足浴や清拭への変更も含めて週２日以上の入浴を基本としている。時間帯や好みについては利用者の希望をくみ取り、タイミングの良い声かけにも努めて、ゆっくりとした気分で入浴を楽しめるよう支援している。ゆず湯などの季節を感じてもらえるような工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時刻は設けておらず、在宅で行っていたように個人の好みの時間に合わせて自由に食堂や居室で過ごし休める環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から出される薬手帳を各職員が確認できるようにしている。服薬が変更された際は状態変化がないか情報を共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴や仕事、趣味を伺い、生け花や入居者向け授業の開催、手芸が行えるよう支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花を買いに行きたい、子供と食事に行きたいなどの希望がある時に対応できるよう家族や職員と話し合い、計画を立て実行できるように支援している	家族からの情報とともに、個々の利用者の好みや習慣は日常会話からもくみ取り、買い物や海岸の散歩等に日常的に出かけている。また、年間行事計画にも組み込んで、小学校の運動会や文化祭、地域や保育園の夏祭り、相撲大会、コスモス見物などの地域行事や外食など、可能な限り楽しく外出できるように工夫・支援を行っている。家族の援助のもとでの外食や買い物、一時帰宅や外泊、法事や墓参り等も勧めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の預かりは施設としてはしていないが、買い物支援や外食支援を行う際は家族と相談し本人が金銭を所持し、金額に応じた買い物ができるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	入居者が家族や友人と連絡を取り合いたいときに手紙のやり取りができるようにしている。電話を掛けたい旨にも応じている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の装飾や花を飾るなどの工夫をしており、採光や音量も確認しながら調整している	リビングは明るく室温や湿度、清潔感にも配慮がなされ、桜島や錦江湾が望め眺めが良い。ベンチや椅子、空気清浄機などが配置されてゆったりとくつろげる環境である。季節の花が飾られ、壁には利用者が作成した絵画や習字、貼り絵などが飾られ、静かにゆったりと過ごせる。エレベーターの前にはひな人形も飾られ、ユニット間は自由に行き来ができ、センサーの設置や職員間のインカム等で安全対策にも配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の人間関係を観察し考慮しながら食事時間や余暇時間が快適に過ごせるよう環境作りを行っている		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より思い入れのある家具や仏具、神具、タンスなどを持参される方もおり、在宅生活で使用していたものや好みのものを居室に持ち込み快適に過ごして頂いている	日常が本人のペースで居心地よく過ごせるように、使い慣れた身の回りの小物・テレビ・位牌・本・写真・自作の作品などを持ち込んでもらい、家族とも協力しながら環境づくりを工夫している。居室は明るく、ホームからは洗面台・ベッド・棚・エアコン・トイレ・カーテンが設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	アセスメントの中で、入居者本人ができること、していること、行ってきたことを把握する。個別支援の中でできることやわかることを行えるよう、声掛けや支援内容の工夫をしている。		

Ⅴ　アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23,24,25）		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18,38）	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 （参考項目：36,37）		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 （参考項目：49）		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30,31）		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 （参考項目：28）		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9,10,19）		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：9,10,19）		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に１回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して，地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり，事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，活き活きと働けている。 （参考項目：11,12）		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない